



## ベスト プラクティス

---

- [ロールバック スクリプトの作成, 1 ページ](#)

### ロールバック スクリプトの作成

カスタムタスクのスクリプトを作成するときは、対応するロールバックスクリプトを作成することを推奨します。ロールバックスクリプトは、カスタムタスクのスクリプトに行われた変更を元に戻します。たとえば、カスタムタスクがリソースを作成した場合、ロールバックスクリプトはそのリソースを削除します。

もちろん、多くのロールバックシナリオにはカスタムタスクが実行される前のシステムの状態に関する情報が必要です。CloupiaScript ライブラリには ChangeTracker API が含まれており、それを使用してカスタムタスクの影響を無効にできます。ChangeTracker API を使用して、リソースを作成する前に状態情報を収集する UndoableResource オブジェクトを作成します。ロールバック時に、UndoableResource はこの情報を使用して、リソースを前の状態に復元します。

ChangeTracker API には、リソースの変更および削除のロールバックをそれぞれ有効にするための 2 つのメソッドが含まれています。

- `ChangeTracker.undoableResourceModified()`
- `ChangeTracker.undoableResourceDeleted()`

ロールバック スクリプトを作成するために ChangeTracker API を使用方法の例については、次の URL で入手可能な『Cisco UCS Director CloupiaScript Cookbook』を参照してください。  
<http://www.cisco.com/c/en/us/support/servers-unified-computing/ucs-director/products-programming-reference-guides-list.html>

